

全米ドラッグ・コート専門家協会の年次総会に尾田事務局長出席

アメリカには全米ドラッグ・コート専門家協会 (NADCP=National Association of Drug Court Professionals) という、ドラッグ・コートで働いている裁判官、検察官、弁護士、保護観察官、リハビリ施設職員、ケースワーカー、カウンセラー等が参加している協会があり、毎年2000人規模の総会が開催されています。私はドラッグ・コートに関する情報収集と、今まで傍聴させてもらった裁判所のスタッフ達との交流を継続するために第9回のリノのヒルトンホテル、第10回のミルウォーキーのコンベンションセンター、そして今回第11回のオーランドのマリオット・コンベンション・センターと3回出席しています。

今年度のテーマは、「回復の永続性を高めること」と題して、6/9-12の4日間、2000人収容できる大ホールでの講演から小さな会場に分かれてのセッションも含めて合計約120のワークショップが開催されました。

その内容ですが、ドラッグ・コートの評価研究をどうすべきか、薬物検査をどのように実施するべきか、重複障害者をどうケアするのか、人はなぜ変わることが難しいのか、ドラッグ・コートでのサンクション(罰)のあり方についてといったものから、ドラッグ・コート創設に向けていかに政策立案者にメッセージを伝えるべきかといったテーマなど幅広くさまざまなテーマが取り上げられました。今年からは特に、ドラッグ・コートの発展型である、飲酒運転者のための裁判(DWI Court=Driving while Impaired Court)、メンタルヘルス・コート、DVコートなど、いろいろな問題解決型裁判所(Problem Solving Courts)についてのセッションも開かれました。

また、それぞれのドラッグ・コートの活動を紹介するためのブースや、関連業者のブースが並んでいる会場では、薬物検査キットのパンフレットやサンプルを配っていました。2006年は、6/21-24にシアトルのワシントン州コンベンション・貿易センターで開催されます。



左が嶋根卓也研究員、右が尾田真言事務局長

会場風景 ~

マリオット・コンベンション・センターにて



アメリカの薬局で売られる薬物検査キット



アメリカのドラッグストアでは、家庭用の簡易尿検査キットが販売されています。1回の検査で、複数の違法薬物の検査ができるようになっていて、検査品目の多いほど値段が高くなっています。アパリでは、今後、アメリカの薬物検査キットを輸入し、販売することを計画しています。薬物検査キットが社会に広まることによって今までの何倍もの乱用者が表面化し、既の刑事司法制度では対応できなくなり、ドラッグ・コートのような代替策が創設されることを期待しています。



会議場にて、日本で講演したことがある
ペギー・ホラ判事とともに